

公開研究会

大門正克著 『語る歴史、聞く歴史 —オーラル・ヒストリーの現場から』 を読む

期日 2018年2月11日(日)14:00-17:00

場所 東京大空襲・戦災資料センター

主催 東京大空襲・戦災資料センター 次世代継承研究会

入館協力費 一般300円 中高生200円 小学生以下無料

書評者

小野寺拓也(昭和女子大学専任講師、ドイツ近現代史、ナチズム、日常史、ジェンダー史)

早乙女愛(映像プロデューサー、センター証言映像作品制作者)

山本唯人(東京大空襲・戦災資料センター主任研究員、社会学)

応答者

大門正克(横浜国立大学教授、日本近現代史、『語る歴史、聞く歴史』著書)

歴史学者・大門正克氏による『語る歴史、聞く歴史—オーラル・ヒストリーの現場から』(岩波新書)が刊行されました。本書は、大門氏の豊富な聞き取り経験を踏まえながら、「経験を語り、聞くという営みはどう紡がれてきたのか」を見渡し、そこから、新たな歴史学の可能性を展望するものです。

本書のなかで、東京空襲を記録する会が呼びかけた体験記の募集は、戦争体験を明らかにし、戦争像を問い直そうとする1970年代の重要な活動の一つとして取り上げられています。

記録する会の設立から40年以上が経過し、その成果を引き継ぐ戦災資料センターでは、いま、体験の継承をテーマに、展示リニューアルの検討が進められています。

本研究会では、「語り、聞く」歴史をめぐる、動き続ける〈現場〉の一つである、戦災資料センターを舞台に、本書が投げかけた問題を、著者および多方面からのコメンテーターを交えて討論します。

東京大空襲・戦災資料センター

〒136-0073 東京都江東区北砂1丁目5-4

Tel: 03-5857-5631 Fax: 03-5683-3326

Web: <http://www.tokyo-sensai.net/>

